

ころで行き過ぎたことに気付いて、砂防ダムまで引き返す。

目的の沢の出合は、あまりにも貧弱である。出だしは伏流。河原で、よくよく注意しないと見逃してしまう。

「この沢は何もないね」などと言いながらも、気を取り直して遡行を開始する。多少進むと、沢に水が出てくる。次に1~2mの小滝が連続して出てくると、そう悪くもないぞという感じになってくる。続いて4m, 3m, 6m, 1mと連瀑となって滝が現れる。沢の大きさからいって、この連瀑はもうけものである。ナメを越し3m程の滝を登ると、沢は二手に分かれる。核心部はここまでである。

カレ沢となった右の支沢を見送って、左俣の支沢に入る。少し進むと、沢は再び潤れて、源頭までいっきに突き上げている。私達はカレ沢を30分程登り、途中、右岸の支沢から、いっきに尾根めざしてやぶこぎに入る。すぐにやせ尾根に出、トラバースぎみに1本下流の無名沢の源頭部へ回り込む。(記

【タイム】 出合(7:10)→沢終了(8:25)→尾根(8:30)

アカツラ沢

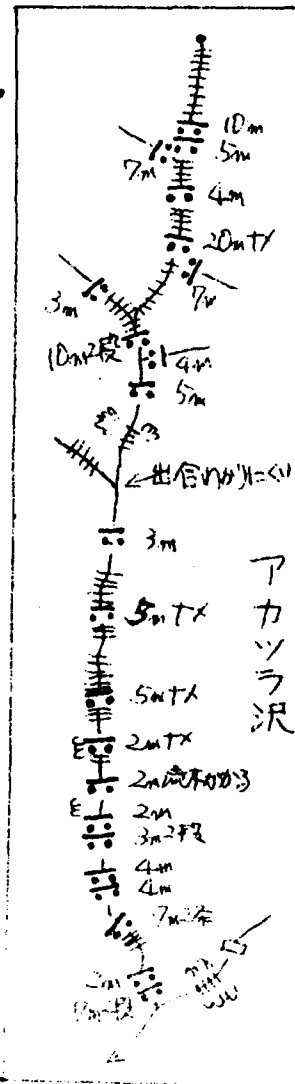
1987年8月30日

L

砂防工事用の道路を進み、本流を少し下降してアカツラ沢出合へ。出合は本流が小さなゴルジュ状をなしているすぐ下流であった。

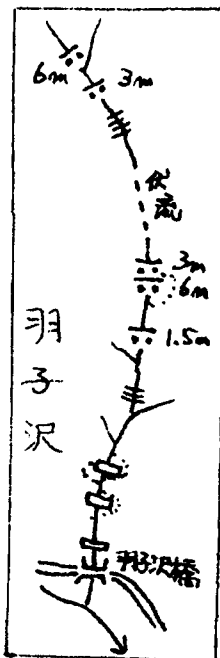
アカツラ沢は、出合に7m程のナメ滝をにかけている。ホールド豊富で、簡単に直登できるが、出だしの雰囲気としては上々である。すぐにまた7m2条の滝。この沢のハイライトとでもいうべき滝で、右側の流路にそってシャワーで直登する。このあとも小滝が続き、全て直登できて、飽きさせない。

やがて水量が急減する。とともに沢の傾斜がやや緩くなり、ナメが続くようになる。このナメは、途中に小滝をはさみながら源頭まで続いた。



ナメが急傾斜になってきた所で二俣となる。左俣は水がほとんど流れていないので、右俣に入る。このあとは滝ともナメともいえない状態が源頭まで続き、結構楽しんで登ることができた。
(記・7)

[タイム] 出合(7:30)→二俣(8:25)→遡行終了(9:05)



羽子沢 1987年8月30日
L

9:00下降開始。右岸からの沢と出合った所で、水流が出てくる。しかし、これもすぐ伏流となってしまう。9:25羽子沢本流に出る。ここで、ちょっと上流へ偵察に出る。何もないだろうと思っていたのに、20m程のナメと、3m、6mの滝があった。

下降を再開。F₁は左岸を捲く。登りなら、何とか登れそうな気がする。左岸からの支沢を合わせ、堰堤を3つ越すと林道に出る。ここで下降終了。

途中で伏流となったりで、特に美しい沢ではない。やぶもそれほどうるさくない沢だ。
(記・)

[タイム] 稜線(9:00)→羽子沢(9:25)→下降終了(10:25)

サクエム沢 1987年8月29日
L

13:15遡行開始。出合から2つ目の堰堤を越えると、二俣となる。左俣に入る。そこから10分も歩くと5mトイ状の滝に出る。私が先に登って、浦住さんを確保する。ここからはナメが続き、快適な遡行となる。

F₂ 4mはスタンス充分で、楽に越す。さらに20分程ナメが続き、ガレ場に出た所で水もなくなった。遡行終了14:30。
(記・)

[タイム] 出合(13:15)→遡行終了(14:30)

